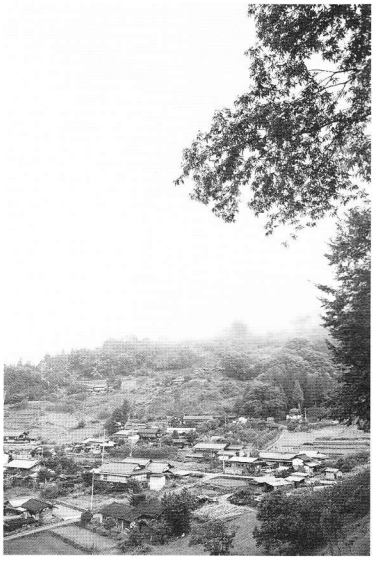
city & life

都市のしくみとくらし

no.93
autumn
2009

特集 マチとムラの幸福のレシピ

city&life no.93 autumn 2009



表紙・裏表紙――長野県大鹿村
photo：秋山由樹（関連記事:p6）

特集　マチとムラの幸福のレシピ

contents

インタビュー	なりわい興しで、新しい〈マチ〉と〈ムラ〉の関係をつくろう　佐藤 誠	2
ルポ	「日本で最も美しい村」地域に生きる幸せを求めて　遠藤哲夫	6
ルポ	「美の条例」が守り育む、「暮らし」の景観　神奈川県真鶴町の試み	22
	イタリアのスローシティ　美しい村の暮らし　島村菜津	30
	「農山村」と「都市」の関係を考える　橋口卓也	36
	back number・information	40

マチとムラの幸福のレシピ

特集

近年の市町村合併によって、「町」や「村」が減った。「○○市」という住所を頼りに訪ねていくと、のどかな農村だったりして、驚かされることも少なくない。そんな中、「町／村」であることのメリットを最大限に生かし、自然と暮らしの調和を目指したまちづくり活動が広がっている。NPO法人「『日本で最も美しい村』連合」に加盟した、18町村・地域による活動もその一つ。今年度中には加盟町村・地域はさらに増え、30を超える見通しだという。そんな「町／村」の取り組みの意義は、景観・環境・文化による、地域の独自性、個性的な魅力の創造だ。これらの試みが、地域文化を見つめ直し、積極的に生かしていこうとするものならば、「都市」にとってもその意義は変わりない。居住地域のスプロール化によって、都市と郊外、それぞれがもっていたはずの固有性は曖昧になり、市町村合併によって「市／町／村」は、ますますその境界を失った。人の暮らしが息づく場所としての「町」や「村」。それらが本来もっていたはずの固有性と魅力を見つめ直す。

photo:**秋山由樹**「山形県大蔵村の朝市」（関連記事:p6）